

ODIP 4.3 修正パッチ (P1040305005766) リリースノート

2023/11/1

(株) インテリジェント・モデル

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容 .....	4
1. dbaccess.log の出力フィルタ機能を改定 .....	4
2. SQL 文に改行が含まれていると dbaccess.log に出力されない問題を修正.....	4
B. パッチ適用による影響 .....	5
1. dbaccess.log の出力フィルタの改定に伴う影響 .....	5
C. パッチの適用方法.....	5
1. ライブラリファイルの更新.....	6
2. パッチ適用後の確認.....	6

## A. 変更内容

### 1. dbaccess.log の出力フィルタ機能を改定

#### (1) dbaccess.log に出力するフィルタを正規表現で指定するよう改定

ODIP が実行する SQL 文を dbaccess.log に出力するフィルタにおいて、従来はオプション (server.dblog.filter.exclude、server.dblog.filter.include) で指定した文字列と部分一致する SQL 文をフィルタ対象としていましたが、改定後はオプションに正規表現を指定して、正規表現の文字列パターンに一致する SQL 文をフィルタ対象とするよう改定しました。正規表現で特殊文字 (半角アスタリスク、半角括弧等) を文字として認識させたい場合、"`¥¥`" (バックスラッシュ・円記号 2 つ) でエスケープする必要があります。

従来と同様、複数の文字列パターンを指定する場合は半角カンマで区切ります。パターンに半角カンマを含むことはできません。

#### (2) server.dblog.filter.exclude、server.dblog.filter.include の既定値、初期設定値を変更

ODIP トランスフォーマの config フォルダに格納されている odip.ini の server.dblog.filter.exclude 及び server.dblog.filter.include の既定値、初期設定値を変更しました。

変更前の既定値、初期設定値)

```
server.dblog.filter.exclude = COUNT(*)
```

```
server.dblog.filter.include = SELECT,DELETE,CREATE,DROP,RENAME
```

変更後の既定値)

```
server.dblog.filter.exclude =
```

```
server.dblog.filter.include =
```

変更後の初期設定値)

```
server.dblog.filter.exclude = .*COUNT¥¥(¥¥*¥¥).*,^INSERT.*,^UPDATE.*,^MERGE.*
```

```
server.dblog.filter.include =
```

※server.dblog.filter.include の設定値が空文字、もしくはオプション自体の設定がない場合は、server.dblog.filter.exclude で除外された以外の全ての SQL 文が出力対象となります。

### 2. SQL 文に改行が含まれていると dbaccess.log に出力されない問題を修正

ODIP が実行する SQL 文に改行が含まれていると、dbaccess.log に出力されない問題を修正しました。

## B. パッチ適用による影響

### 1. dbaccess.log の出力フィルタの改定に伴う影響

dbaccess.log の出力フィルタの改定に伴い、ODIP トランスフォーマの config フォルダに格納されている odip.ini の server.dblog.filter.exclude 及び server.dblog.filter.include にフィルタ設定をしている場合、設定の変更が必要になる事があります。

例えば、INSERT 文をフィルタの対象としていた場合、従来は"INSERT"と設定してあれば部分一致でフィルタ対象となっておりましたが、改定後は正規表現で「^INSERT.\*」(INSERT で始まる文字列)と設定する必要があります。また、"COUNT(\*)"など、含まれる特殊文字を文字として認識させる場合、改定後は正規表現で「COUNT¥¥(¥¥\*¥¥)」といったように"¥¥" (バックスラッシュ・円記号 2 つ) でエスケープする必要があります。正規表現の指定に誤りがあると、ODIP トランスフォーマ起動時にエラーとなります。

## C. パッチの適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ODIP アドミニストレータ v4.3
- ODIP オペレーションマネージャ v4.3
- ODIP リポジトリマネージャ v4.3
- ODIP プロセスマネージャ v4.3
- ODIP リポジトリサーバ v4.3
- ODIP トランスフォーマ v4.3

## 1. ライブラリファイルの更新

実行中の ODIP 製品を終了し、ODIP\_P1040305005766 フォルダに格納されているライブラリファイルを、表 1 のファイルのコピー先に上書きコピーしてください。

表 1 ODIP\_P1040305005766 のフォルダ構成及びファイルのコピー先

ODIP_P1040305005766	ファイルのコピー先
lib	
ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ
OPE	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ
RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ
RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ
TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ

## 2. パッチ適用後の確認

パッチ適用後は、各製品を起動し、表 2 の確認方法に従って確認を行ってください。

表 2 パッチ適用後の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニューから“ODIP について”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040305005766 であることを確認してください。
ODIP オペレーションマネージャ	
ODIP リポジトリマネージャ	
ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャのツールメニューから“ORMS サーバ情報”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040305005766 であることを確認してください。
ODIP トランスフォーマ	ODIP トランスフォーマを起動し、showserver コマンドを、オプションに“-info version”を指定して実行してください。表示されたすべてのビルド ID が 1040305005766 であることを確認してください。

以 上